北海道海外派遣事業報告書 2017

ベトナム・タイ



公益社団法人

北海道国際交流・協力総合センター

目 次

| 研修事業概要 | 至•• | | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | 1 |
|--------|-------------|----|----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 海外派遣研修 | 廖 団名 | 乙簿 | <u>.</u> | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | 2 |
| スケジュール | | | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | | • | • | • | • | | • | • | 3 |
| アルバム・・ | • • | | | • | • | | • | • | • | • | • | | • | | • | • | | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | 4 |
| 参加者レポー | | | • | • | | • | • | • | • | | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | • | | • | • | • | • | • | 8 |
| 行動記録・・ | • • | | • | | | | | | | • | | | | | • | | | • | | • | • | | | | | | | | 2 | 5 |

北海道海外派遣事業報告書 2017

ベトナム・タイ

1 趣旨

道内各地の青年を海外に派遣し、視察や関係者との意見交換などを通じて、本道との違いや地域社会のあり方などについて学ぶとともに、異文化や国際交流等に対する理解を深め、国際的な視点に立って地域づくりを進める人材を養成し、地域の国際化の促進に資する。

2 訪問国

ベトナム (ホーチミン、ハノイ)、タイ

3 派遣対象者

北海道の青年(20~45歳程度)

4 研修内容

国際協力の実態と効果的な協力事業のあり方や、経済交流や異文化交流について学ぶ機会とする。

- ・JICA 事業の取り組み
- ・NGO、日系企業等の現地での活動状況
- ・経済交流の状況理解
- ・子どもや青年交流

5 派遣計画

・訪 問 先:ベトナム (ホーチミン、ハノイ)、タイ

・派遣人員:6名(団長1名、団員5名)

派遣期間:平成29年10月29日(日)~11月5日(日)8日間

6 参加者負担金

13.5万円

7 旅行主催

東武トップツアーズ株式会社

平成29年度北海道海外派遣研修団員名簿

(五十音順)

| | | | | | | | (五一日順) |
|----|-----------------------|---------------------------------------|----|------|------------|---------|-----------|
| No | 氏 : | 名 | 性別 | 職業 | | 所 | 属 |
| 団長 | 石井 博 | * 学 | 男 | 団体職員 | 公益社団法人事務局長 | 北海道国際交流 | ・協力総合センター |
| 団員 | 佐藤隆 | ************************************* | 男 | 会社員 | | | |
| " | すがわら ぁ 菅原 有 | 紗 | 女 | 大学生 | | | |
| " | すがわら み3 菅原 瑞 | 葉 | 女 | 大学生 | | | |
| " | ****** *** 杉村 移 | ***** 香 | 女 | 会社員 | | | |
| " | まっだ ふき 松田 文 | ^{» え} て恵 | 女 | 会社員 | | | |
| 添乗 | かめだ ふき 亀田 文 | ^{みえ} て恵 | 女 | 添乗員 | 東武トップツァ | ノーズ株式会社 | |

平成29年度北海道海外派遣事業スケジュール

【派遣国】ベトナム(ホーチミン、ハノイ)、タイ

| 日次 | 月日・曜日 | 都市名 | 時間 | 交通機関 | 内容 | 宿泊地 |
|----|--------|--------|-------------|-------|-----------------|----------------|
| 1 | 10月29日 | 新千歳発 | 10:00 | TG671 | 移動 | |
| | (日) | バンコク着 | 15:50 | | | ホーチミン |
| | | バンコク発 | 18:25 | TG556 | | (Saigon Hotel) |
| | | ホーチミン着 | 19:55 | | | |
| 2 | 10月30日 | ホーチミン | 8:30-12:30 | 専用車 | ストリートチルドレン友の会訪問 | ホーチミン |
| | (月) | | | | | (Saigon Hotel) |
| | | | 14:30-15:30 | | JETRO 訪問 | (oargon noter) |
| 3 | 10月31日 | ホーチミン | 午前 | 専用車 | 市内視察 | |
| | (火) | | | | 統一会堂、中央郵便局、ベンタ | ハノイ |
| | | | | | イン市場、戦争証跡博物館、等 | (Mon Regency |
| | | ホーチミン発 | 16:00 | VN256 | 移動(ハノイヘ) | Hotel) |
| | | ハノイ着 | 18:05 | | | |
| 4 | 11月1日 | ハノイ | 9:00-11:00 | 専用車 | JICA 訪問 | ハノイ |
| | (水) | | 15:00-16:30 | | ベトナム国家大学ハノイ校訪問 | (Mon Regency |
| | | | | | 青年交流夕食会 | Hotel) |
| 5 | 11月2日 | ハノイ | 午前 | 専用車 | 市内視察 | バンコク |
| | (木) | | | | ホーチミン廟、ホーチミンの | (The Twin |
| | | | | | 家、一柱寺西湖、文廟、等 | Towers Hotel |
| | | ハノイ発 | 15:30 | VN613 | 移動 (バンコクへ) | Bangkok) |
| | | バンコク着 | 17:35 | | | Bangkok/ |
| 6 | 11月3日 | バンコク | 9:00-10:00 | 専用車 | JETRO 訪問 | |
| | (金) | | 10:30-11:30 | | JICA 訪問 | |
| | | | 昼食 | | | バンコク |
| | | | 13:00-13:30 | | HBA タイランド事務所訪問 | (The Twin |
| | | | 14:00-14:45 | | 国際交流基金バンコク日本文 | Towers Hotel |
| | | | | | 化センター訪問 | Bangkok) |
| | | | 15:00-16:30 | | シーナカリンウィロート大学訪問 | |
| | | | | | 青年交流夕食会 | |
| 7 | 11月4日 | バンコク | 終日 | 専用車 | 市内視察 | |
| | (土) | | | | ワット・アルンワット・ポー | 機内 |
| | | | | | 王宮、ワット・プラケオ、等 | r i xxu |
| | | バンコク発 | 23:45 | TG670 | 空港へ移動 | |
| 8 | 11月5日 | 新千歳着 | 8:20 | | 到着 | _ |
| | (日) | | | | | |



ベトナムストリートチルドレン友の会 (FFSC)事務局にて活動内容やベトナムの子供たちの現況についてお話を伺った。

FFSC を訪問した後に子供と交流する時間があった。人懐っこい子が多かった。子供たちと一緒に椅子取りゲームをしている様子。

ベトナム

ホーチミン市 10月29日~10月31日

◇10月30日(月)

訪問先:FFSC (ストリートチルドレン友の会)、 JETRO ホーチミン事務所

◆10月31日(火)

市内視察:統一会堂、中央郵便局、サイゴン大教会、ベンタイン市場、戦争証跡博物館、サイゴンスカイデッキ展望台 など



JETRO ホーチミン事務所にて。ベトナムの経済状況、日本企業の進出 状況などを教えていただいた。



中央郵便局にて。現在はほぼ使われていないが、国際電話が残っている。



戦争証跡博物館 にてベトナム戦争の写真を通してベトナムの歴史を 学んだ。



ベトナム国家大学ハノイ校の学生に北海道の食や文化についてのプ レゼンをした。



ベトナム国家大学ハノイ校の学生とディスカッション。

JICA ベトナム事務所ではベトナムの現状や日本との関わりについて ご教示いただいた。

ベトナム

ハノイ市 10月31日~11月2日

◆11月1日(水)

訪問先: JICA ベトナム事務所、ベトナム国家大学 ハノイ校

◇11月2日(木)

市内視察:ホーチミン廟、ホーチミンの家、一柱寺 西湖、文廟、など



一柱寺西湖にて。池の中に一本の柱で立つこのお寺は蓮の花を模し て造られた。



ホーチミン廟にて。厳重な警備がされていてベトナム国民にとって大 切な存在だということを学んだ。

タイ

バンコク市 11月2日~11月5日

◇11月3日(金)

訪問先:JETRO バンコク事務所、JICA タイ事務所、 HBA タイランド、国際交流基金バンコク日本文化 センター、シーナカリンウィロート大学

◆11月4日(土)

市内視察:ワット・プラケオ、ワットアルンなど



やキャリアについても語っていただけたので非常に有意義な時間を過 ごすことができた。



海外進出している道内の企業、HBA のタイ現地事務所を訪問。道民 として今後のさらなる活躍を期待したい。



JICA タイ事務所にて。タイの保険制度についてのお話は興味深かっ



国際交流基金バンコク日本文化センターにて。概要や事業事例などお 話しいただいた。



シーナカリンウィロート大学を訪問。



シーナカリンウィロート大学の日本語を学ぶ学生と交流の様子。 意見 交換を行った。



タイの大学生が考案したお米を使ったゲームで交流した。



シーナカリンウィロート大学の学生と。 この日はロイクラトンと呼ばれる灯篭祭りの日で大学も様々な装飾が 施されていた。



シーナカリンウィロート大学内での灯篭流しの様子。



チャオプラヤー川の向こう岸に位置するワットアルンへは船で移動 した。約5分という短い乗船時間ではあるが、全体を一望出来てと てもきれいだった。



ワット・プラケオではたくさんの観光客がおり、非常に賑わっていた。

快晴のベトナム、タイ 八日間の短い旅を終えて

石井 博美

<第一幕・ベトナムの夜は更けゆく>

バンコクを経由して二度目のタンソンニャット空港(ホーチミン)に降り立ったのは、現地時間で 20 時過ぎ(日本時間では 22 時過ぎ)であった。思ったほどの暑さではなかったが、空港前の車止め周辺は旅行者に混じって現地で働く人たちでむせかえるようであった。バスの車中は、予想どおりエアコンの効きすぎで肌寒い。ホーチミン市の都心に近付くにつれて、バイクの群れが際立っていく様子も変わらない。

繁華街のドンコイ通り周辺は、日曜日の夜にもかかわらず、若者たちであふれかえっていた。近くにバイクを止めて、通りや公園の芝生に座り込むおびただしい男女の数々。その数は限りなく、地の底から湧き出してくるようなエネルギーを感じる。日本ではあまりみられなくなった若者たちの渦巻く熱気に、歴史ある街の建物も相まって圧倒されそうであった。いつまでああしているのか、酒をのんでいるのか、家に帰りたくないのか、はたまたほかに居場所がないのか。ホーチミンの長い夜は、若者たちとともに次第に更けてゆく。



ホーチミン市の観光名所でもある中央郵便局前にて

ホーチミン市の人口は約8百万人、首都ハノイを超えるベトナム最大の経済都市である。観光都市でもあり、街中では白人の観光客が以外と目を引く。ベトナム戦争に絡んでか、米国人も少なくない。ランチのレストランで遭遇したイタリア人と思しき3人組のうちの一人がかつての名優、マルチェロ・マストロヤンニにそっくりのおじさんで、驚いた。

ベトナムは南北に細長く、ハノイを中心とする北部は中国に接しており、山間部では降雪

もみられることがあるという。ダナンを含む中部は平野部が少なく災害が多発する厳しい 自然環境。ホーチミンを擁する南部はベトナム経済の中心地で活気があり住む人たちも陽 気だとか。

ホーチミンでは、北の首都への対抗心が強く、ハノイから来た人たちの方言を馬鹿にする 気質がある。一方、ハノイは政治の中心地で、官僚的な雰囲気が強く、プライドが高いと 聞く。もっとも、この間まで南北に分かれて戦っていた訳で、喩はよくないが北朝鮮と韓 国の関係を思い起こさせた。

ベトナムの GDP は未だ日本の3%程度だが、成長率は6%を超え、インドに次いで世界第2位。マレーシアやタイなどの背中を追う ASEAN 中進国として経済発展が著しい。共

産党独裁の社会主義共和国でありながら、ドイモイ政策で市場経済への転換を図り外資を 導入するなど、チャイナプラスワンとしての注目度は群を抜いており、日本企業の進出も 目覚ましい。

9 千万人を超える人口、平均年齢 28 歳で 6 割以上が 40 歳未満という人口ボーナス期がしばらく続く豊富な労働力、労働コストが非常に安価で、かつ手先が器用で勤勉な国民性など、日本企業にとっても条件は整っている。東南アジアの中央に位置し、中国や他のASEAN 諸国へのアクセスが容易で、原油・天然ガスなどのエネルギー資源や、南シナ海に面しているため水産資源にも恵まれている。

サムスンの進出で、携帯電話と同部品が輸出全体の2割ほどを占めるとのことだが、現状では輸入した部品を組み立てて輸出するケースが大半で、工業国として発展するためには、加工だけではなく部材・部品の製造に手を伸ばすことが課題のようである。

一方、世界的なビール離れが進む中で、ベトナムは数少ない成長市場。国営のサイゴン・ビールが株式を売却、基準価格が高すぎるため、日本や欧米の企業は尻込みし、タイの大手酒類会社がほぼすべてを取得するなど、ビールをめぐる話題には事欠かない。「アジア最後のビールの楽園」と評価され、現地で人気のビアホイと呼ばれるたる詰めビールが1杯40円位で、昼間から飲む人も多い。滞在中にショート缶が1万3千ドンほど(日本円で70円位)の「333」などを楽しませていただいた。

さて、北部のハノイには初めて足を踏み入れた。ホーチミンから空路で札幌―東京ほどの 感覚である。仏領時代の面影を残す古い街で、国内線が乗り入れる空港もかなりよたって いたが、日本の大手ゼネコンが手掛けた国際空港は、まるで関空か成田かと見間違うほど で、新旧のコントラストを感じさせた。

夜間のバイクは少な目で、旧市街と呼ばれるエリアは灯りが乏しく薄暗いせいか、ホーチ ミンほどの活気は感じられない。

学生交流のため訪れたベトナム国家大学ハノイ校では、日本語を教えるヴォ先生とやけに ウマが合った。先生は 40 代半ばくらいか、中部ダナン近郊の出身で、東大で 6 年間勉強 し DR を取得した秀才である。留学時代に有楽町のガード下の安酒場で、よく酒を飲んだ 話を懐かしそうにしてくれた。

ハノイでもようやく郊外にイオンができたそうで、土日には毎週買い出しに行くとのこと。 夜は地元の皆さんが集まる小奇麗な酒場で、ベトナムの鍋や生春巻きなどを楽しんだ。 東京オリンピックには息子を連れて絶対見に行くと意気込んだり、ハノイはまだまだこれ からで、街づくりを含めて課題は山積していると熱っぽく語ってくれたのが印象的であっ た。

<第2幕・バンコク-日本人御用達の街>

ハノイからバンコクへ。スワンナブーム空港はすでに夜のとばりが降りていた。さすがに ハノイより蒸し暑い。バスの車中から見る夜景は、バイクが主役のベトナムの平坦な街と 打って変わり、きらびやかな高層ビル群の連なりを高速道路で突っ走る。 一見して、バンコクとベトナムの街との大きな違いは、高速道路やスカイトレイン(BTS、高速高架鉄道)、メトロ(MRT)など、交通インフラが充実しているところである。

タイでは、近年、大洪水や軍事クーデターなどの影響により経済成長が鈍化しており、成 長率は3~4%だが、ASEANではインドネシアに次いで二番目のGDPを誇る。農林水産 業従事者が圧倒的に多く、教育水準(大学卒は2割程度)や技術面の評価はこれから。出生 率はシンガポールに次いで低く、今後より一層少子高齢化が進むと予想され、日本から介 護システムを導入する試みなどもみられるという。

観光立国でもあり、タイを訪れる外国人観光客数は 3,200 万人と、訪日外国人観光客数 (2,400 万人)を上回っている。

在留邦人は ASEAN で最多の 7 万人に達し、日本は外国直接投資国のトップである。日本 食レストランが 1,300 軒以上あり、日本の食材を扱うスーパーなども数多い。

一方、人件費の上昇や労働力人口の不足(2015 年をピークに人口ボーナス指数は減少に向かっている)、不安定な政情、たびたび発生する大洪水などの災害は、日本企業にとって大きなリスクとなりつつある。

驚いたのは LINE の利用者数が 4,100 万人以上で、フェイスブックを抜いてダウンロード 数が第一位にランクされていることであった。

バンコクでも、都心に位置する国立大学を訪問した。日本語を学んでいる学生たちは皆お 行儀がよく、しつけ(?)が行き届いている様子であった。

折しも、ロイクラトンと呼ばれる年に一度の大きなお祭りの日に遭遇し、学内の水場で灯篭流しを学生たちと一緒に体験した団員もいた。学生たちは日本に対するあこがれが強い様子で、夕食会の席で向かい合った折、既に来年、東京の大学への進学が内定していると話していた。父親が会社を経営しており、北大への進学も選択肢にあるという学生もいたりで、比較的恵まれた環境にある両家の子女が少なくないことがうかがわれた。

バンコクも二度目の訪問であったが、今回は日程の関係もあり、夜の街を出歩く機会がなかったのがやや残念であった。良くも悪くも大都会で、日本食レストランやスーパーが乱立する日本人街もあり、生活するには困らない。長期滞在にはもってこいの街。そんな印象を強くしながら、深夜のスワンナブーム空港を後にした。

八日間の短い旅ではあったが、当初懸念された雨(スコール)にあたることもなく、快晴の 日々が続いてくれたことは想定外の幸せであった。

お付き合いいただいた若き団員の皆さんに心から感謝します。

1. はじめに

今回の研修に参加する前は、ベトナム、タイはニュースなどで聞いたことはあるが、どんな街並みなのか、どのような国なのかまったくわからない状態であった。ベトナムは社会主義の国でベトナム戦争が有名。タイは米がとれ、洪水がたびたび起こり世界経済にも影響を与えたニュースを覚えている程度であった。よって、これから行く国はどんな国なのか。先入観を持たないようにするため、インターネットで事前に調査もせず現地に向かうことにした。

2. 日本からベトナムへ

日本からベトナムに行くため、新千歳空港からタイの空港に飛び、そこからさらにベトナムの空港へ移動した。タイの空港は大きさもさることながら設備も一流で、日本の羽田空港よりも大きい印象であった。発展途上国という認識が強かった自分にとっては見方がガラッと変わった瞬間であった。また、乗り継ぎの飛行機を待つロビーでは、韓国のサムスン電子が置いた広告用のディスプレイが置かれていたが、何らかの理由ですべてシャットダウンされ、電源が入っていない状態であった。大企業の業績は世界中のこんなところにも影響を及ぼすものだと感じた。

ベトナムにつくと蒸し暑いと思っていたが東京の梅雨の時期に比べて過ごしやすいと感じた。1日目は、ホテルへ移動してそこで終わりであったが、ホテルも綺麗で過ごしやすかった。トイレットペーパを便器に流さないようにとの注意をガイドさんに受け、日本との違いに驚いた。

翌日は、ストリートチルドレン友の会という場所に行き、子供たちの交流会を行った。幼稚園から小学校6年生くらいまでの子供たちが民間の施設で勉強しているところで、小さな子供と遊び楽しい時間を過ごすことができた。ただ、少し残念なのは折り紙など日本の遊びを教えてもやり方を覚える気持ちがほとんどないような印象を受けた。こんな小さなころから国民性が反映されているのだと日本との違いを感じた。いろんな日本人が訪問し毎回



ホーチミン市の発展の象徴、ぐちゃ ぐちゃ配線の電信柱

同じようなことをするので子供たちは飽きていただけかもしれないが。次に訪問したのが JETRO という日本の機関。貿易の ID などを発行していることは日本でも知っていたがど のような組織なのかいまいちわからない状態で訪問した。ベトナムの経済状況、日本企業 の進出状況など細かいデータを記載したハンドブックをくれ、経済面からベトナムを知る のに大変役に立った。このような組織が海外事務所を置き活動しているからこそ、日本の 企業が海外に進出できているのだと感心した。

次の日は、主にハノイ市内を巡り旧所、名跡を訪ねて歩いたが植民地時代の建物が残っておりガイドさんがしきりにフランス人に建ててもらいましたとの説明をしていて、自分たちで建てた建物がなかなか少ないことに気がついた。日本であれば、ほとんどの建造物は日本人の手で作ったものが多い。が、ベトナムは植民地だったこともありフランス人が作っていったものが多いようである。

ベトナム人自らの手で作り出したものを見てみたい気がした。

3. ベトナムからタイへ

ベトナムではハノイの他、ホーチミンまで飛行機で行きそこからタイに移動した。ハノイ、ホーチミン間は JETRO の職員によると高速道路がないため何日もかかる荒れた道しかないとのことで、飛行機での移動となった。

タイについたのは、また夜でさすがに疲れが出てぐったりしていたが、ガイドの方が元気にしゃべるのでそれを無視するのもかわいそうなので話を聞きながら、食事の場所へ向かった。道路は、札幌市よりも広く高速道路の車線も片側3車線以上あった。ベトナムと違い、クラクションをたくさん鳴らす習慣もなく静かにバスに揺られることができて、ここ



タイの首都バンコクはもう東京並み の街並みです。

にもお国柄の違いを感じすることができた。また、着いたのが夜であったが、バンコクの都市部に入ると東京よりも近代的でビルがたくさんあり、日本はここだけ見ると完全に抜かれていると感じた。次の日、JETROで聞いた話ではタイには相続税がないため、お金持ちに生まれた人はさらにお金持ちになっていくそうで、毎月600万円も収入がある人とゴルフに行ったお話を聞き、貧富の差がすごい国であると再認識した。確かにタイはベトナムに比べて、バイクが少なく、自動車が多い印象。自動車も日本でさえあまり走っていないプレミアムブランドの最上位車種がたくさん走っていた。また、タイも日本と同じで今後高齢者社会になりつつあるという話を聞きショックを受けた。介護ビジネスの発展について聞いたところ、タイでは介護よりも自分の敷地に使用人を

住まわせ、その人たちに介護や身の回りの世話をさせるということで日本のようなビジネスモデルが通用しにくいのでは、という話を聞き、貧富の差があまり少ない日本との違いを感じられた。大学生との交流の場でも、親がビジネスを行い、親の企業で将来働き、日本企業相手にビジネスを行うために日本語学科を卒業するという点についても、日本人のとりあえずは大学を出てから考えようみたいな学生とは違うなと感心した。

4. 最後に

今回訪れたベトナムのハノイ市は、現在も人口が増え続けており、たくさんのバイクが走っていた。若者は給料の半年分もするようなバイクを購入し、デートの足に使っていた。

日本では自動車を持つ若者も減り、マーケットが縮小しているが、ベトナムはこれからも 経済成長し、バイクから、4輪の自動車へと劇的に変化していくものと思われた。

日本車がたくさん走ってはいたが、韓国の車やフォード、ヨーロッパの高級車もかなりの数が走っていた。日本が今後経済発展を持続するためには国内ではもう無理でこういったアジアの新興国へシフトせざるを得ない状況であると肌で感じとることができた。また、タイについては日本よりも発展しているとみてもいいくらい経済的にも裕福であった。スマートフォンを両国の若者は使いこなし、インターネットも当たり前にある時代。日本が現在の競争力を維持し差別化するためにはやはり教育が重要ではないかと再認識した旅であった。

ベトナム・タイから見た日本 ~人との出会い~

菅原 有紗

○はじめに

私がこの研修に参加した理由は、北海道と ASEAN 諸国の交流に興味があり、現地に行って自分の目で見たいと思ったからである。現地の目線で北海道や日本の印象を知る、が自分のテーマであった。JICA や JETRO などの現地で仕事をしている日本人の方、現地の大学生との交流は自分にとって貴重な話を得る機会であった。

この報告書では、人との出会い、研修のテーマである現地から見た日本の印象、まとめ、 という流れで、文章を綴る。

○人との出会い

1 週間の研修を振り返って、何を思い出すかと聞かれたら、出会った人たちの顔である。 国と国を繋ぐものは、人だと私は思う。私が印象に残っている 3 人のエピソードを紹介したいと思う。

①5歳くらいの男の子

ストリートチルドレンの施設を訪問した際、小さい子供たちが私たちのもとに駆け寄ってきた。私がある女の子を抱っこしていたとき、私を囲んでいた子供たちの中に3歳と5歳

くらいの顔の似ている2人の男の子がいた。 私はおそらく兄弟だろうと思った。すると、 お兄ちゃんは弟の背中を優しく押して弟を私 に近づけようとした。彼らの家庭状況はわか らないが、弟を抱っこしてあげてほしいとい うと兄の優しさなのだろう。本当はその兄も 抱っこしてもらいたいだろうに…と胸が締め 付けられた。親と暮らせない子どもがいる。 さみしい思いをしているにも関わらず優しい 心を持った子がいる。私に出来ることはある のだろうか…と深く考えさせられた。子供た



元気いっぱいな子供たちと

ちと遊んだ2時間、皆元気いっぱいで、自分が元気づけられた。

②シルク店の女性店員さん

手縫いの刺繍がされた巾着が 240000 ドン (800 円) で売っていた。それを見て高いという日本人。ベトナム人の店員さんが「ベトナムの賃金はとても安い。これを縫うのに何時間もかかっているからこの巾着は高くない」と言っていた。彼女の言う通りであると思った。どうして同じ手作業でもベトナム人と日本人によって価値が変わるのだろうか...。刺

繍は丁寧できれいだ。彼女の訴えを私は受け止めることしか出来なかった。それまでベトナムやタイは物価が安いと喜んで滞在していたが、私はこの物価の差をどう捉えるべきかわからなくなってしまった。

③AEON の若い店員さん

AEON のスーパーで買い物をしていた際、ある店員さんに「なにをおさがしですか?」と日本語で話しかけられた。彼は日本人である私と話したかったようだ。おすすめのお土産を教えてもらったあと、少し話をした。彼は「自分の家は貧乏だから大学に行けなかった。だから独学で英語と日本語を勉強している」と言っていた。私が「1週間の研修で日本から来た」と言った時の、「いいな~行ってみたいな~」という彼の言葉を私は忘れられない。ベトナムより日本の物価は高く、彼にとって日本はとても遠い場所のようだった。彼は「ベトナムで生きるのは難しい・・・けど頑張ります、前向きな気持ちになりました、話を聞いてくれてありがとう」と私に言った。私はただ話を聞いただけだったが、私は彼に勇気を与え、私も彼から勇気をもらった。

私の心に残っている人たちは他にもいる。大学訪問のプレゼンのために、ベトナム語やタイ語を何度も何度も教えてくれた現地のガイドさん、国の文化や習慣を日本語で紹介してくれたり、若者トークで盛り上がった学生たち。自分が出会った人の印象は、国の印象になると思った。ベトナム人は真面目で気配りができて人懐っこい人たち、タイ人は自由で明るくて優しい人たち。私が「またタイやベトナムに行きたい」と思うのは、彼らが好印象でまた会いたいと思うからである。私も、出会った外国人に「日本はいい国だ」「あの人にまた会いたい」と思ってもらえるような日本人になりたいと思う。

○日本の印象

私は訪問先であらゆる人に日本の印象を聞いた。日本の企業が海外に進出することで、現地人にとって迷惑なことはないのか、と思ったからである。しかし悪い印象の答えはあまりなかった。日本の印象が良い理由は、日本人の誠実な性格と、進出している日本企業が現地に合わせたビジネス展開をしていることだと思う。

タイ人やベトナム人は、日本に対して良い印象を持っているのに、自分はタイやベトナムを詳しく知らなかったことを恥ずかしく思った。また、日本とタイ・ベトナムは、経済交流と人的交流を双方に活性化させる必要があると思った。

○まとめ

ベトナムやタイは、世界で戦っていくために努力をしていると思った。例えば多くの店員が日本語を話せることからそう感じた。この適応力と国の勢いを感じて日本は将来抜かされるのではないか、思った。日本人はもっと世界に目を向けて柔軟に適応していく力が必要だと思った。今回の訪問で海外に関わる仕事がしたい、という思いが強くなった。自分がやりたいこと、できること、やるべきことは何か、を考える充実した研修であった。



夕食交流会~ベトナムの日本語学科の学生~

外から見る日本、外から見る私

菅原 瑞葉

1.はじめに

2017年10月29日~11月5日の間、私はタイとベトナムを訪問した。大学生活も残り1年半ほどで終了なので、機会があれば海外に行きたいと思っていたので参加を決意した。明確な理由のない中での参加だったにも関わらず、学ぶことは非常に多かった。特に学んだこと、感心したことは日本の良さと海外の学生の意識の高さの2点だ。以下この2点について詳しくまとめる。

2-1.日本の良さ

「最近の日本は元気がない。」「日本は外国との競争に勝てない。」

これがこの派遣研修に参加する前の私の考え方だ。しかし、タイ・ベトナム両国のJICA、 JETRO 事務所の訪問後は「日本は海外で良い活動を行っており、それに対して現地国民 の理解も得られている。」「日本もまだまだ海外と戦える」といった意見に変わった。



元気で人懐っこい子供たちとゲームを通して交流した。言語 が通じなくてもコミュニーケーションをとることが出来てと ても楽しかった。

特に印象に残っている日本の事業は、ベトナムに健康保険の制度を導入しようとしていることだ。日本には国民が必要な医療を安価に受けられるように保険制度があるが、アメリカなど海外を見るとそのような制度がある国は少ない。大学で保険の勉強をしたこともあり元々関心ではのた。その良い制度をベトナムにも取りてた。その良い制度をベトナムにも取りれていこうとしている取り組みは非常に良いことだし、ベトナムをただ単にビジネスチャンスの場だと捉えているのではなく、社会基盤も整備しようと

していることに日本人として誇りを感じた。現地民からも日本に対するイメージが非常に 良いと伺って、日本国内にいると感じられないけれど、日本は世界の中でも頑張っている のだと感じることが出来た。

また、その裏返しとして日本社会は非常に整備されており生きやすい環境だと感じた。 現地ではのどが渇いた時水道水は飲めないのでミネラルウォーターを購入しなければならないし、足が不自由でも凹凸のある砂利道を歩かなければならない。しかし日本にいれば 水道水を飲めるし、道路も舗装されていて歩きやすい。日本の外を体験して日本の良さを 知ったことも大きな収穫だった。また愛国心も生まれ、日本についてさらに理解を深めたいと思った。

2-2.海外の学生のやる気

ベトナムではベトナム国家大学ハノイ校に、タイではシーナカリンウィロート大学に訪問した。ベトナムでは、日本人とベトナム人学生が双方に対して観光や食をテーマにしたプレゼンをし、その後懇親会で交流をするという流れであった。

交流会ではベトナム人学生と3時間ほど話すことが出来た。自分の国についてよく知っていること、日本語がすらすら出てこなくても伝えようと一生懸命に話していることがとても印象的だった。一方の私はというと、日本のことはもとより北海道のことや札幌について知らないことが多くあると感じた。日本に帰ってからは今まで行ったことのない場所を訪れたいと思うと共に、見たことや魅力的な場所を海外の人に伝えたいと思った。また、失敗を恐れずに一生懸命に日本語で自分の意見を話そうとしている姿を見て、自分の意見を諦めずに伝えようとすれば相手もしっかり聞いてくれるし、多少の失敗なんて誰も気にしていないことを学んだ。私は英語を話すことに抵抗がある。それはうまく話せないし、うまく話せない私を相手にする外国人を困らせてしまうのではないかといった考えがあったからだ。しかし今回の経験を通して、多少のミスでも気にせず話したほうがよっぽど伝わる上印象も良く、聞き手に伝えようとする意志や思いがあれば相手を困らせることはないということを学んだ。英語ができないことを言い訳にせずに積極的に使っていこうと思った。

さらにタイでは将来について具体的に考えている学生を目の当たりにし、現在の自分と の差を実感した。タイの学生とも交流会の時間を設けていただいていたので学生生活や今

後のキャリア形成についてお話する時間があった。私は大学3年生なのでこれから就職活動が本格化する。したがって将来のことや仕事について考える必要があるのは当然である。一方タイの学生は大学を卒業してもすぐには就職しないという。それにも関わらず将来の夢や将来像をしっかりと描いていた。同じ時間を過ごしてきていても将来に対する意識の高さややる気の差を実感した。楽しそうに将来について語っているのが印象的だったので私も今後の就職活動においてその姿勢を見習わなければいけ



タイの学生と大学のお祭りにて写真撮影。大学に屋台 なども出ていて日本の学校祭のようだった。

ないし、半年後にそうあるために今から出来ることは精一杯頑張らなければならないと感じた。

3.最後に

今回の研修を通して以上2で挙げたことを中心に様々な学びがあった。得たことをただ吸収するだけでなく、今後の人生に活かすために何をするべきかまで考えることがこれからの課題だ。今後やりたいことも見つけることが出来たので、非常に有意義な時間を過ごすことが出来た。

最後に、今回の派遣事業にあたり、東武トップツアーズの亀田様をはじめ、HIECC の石井様、その他派遣員の方々に大変お世話になりました。学生ということで非常に自由に行動させていただきましたが、広い器で温かく見守ってくださったので学びの深い研修にできたと思っております。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

平成29年度北海道海外派遣事業に参加して

杉村 綾香

10月29日~11月5日の8日間、北海道海外派遣事業に参加し、ベトナムとタイを訪問した。

ベトナム (ホーチミン、ハノイ)

◇FFSC (ストリートチルドレン友の会)

FFSCはホーチミン市カトリック団結委員会の傘下で活動する民間・非営利のNGO団体である。世話をしてくれる親や親戚がいない、住居はあっても経済的事情や出生届・住民票が揃わないために、公立学校へ通えない子供達の環境改善を目指して活動を行っている。主な活動内容は、教育や生活の場の提供、職業訓練、社会事業、里親制度(主に教育

費の援助)などだ。里親には日本人が多いと 伺い、同じ日本人として誇らしい気持ちになった。その後、ストリートチルドレン友の会 のセンターを訪問し、子供達と竹とんぼやお 手玉など日本の伝統の遊びをして楽しい時間 を過ごした。特に折り紙の鶴は大人気でとて も喜んでくれた。困難を抱えている子供とは 思えない程、明るく元気いっぱいで私が元 気をもらった。



子供達の温かい歓迎にほっこり (FFSCのセンターにて)

◇JETROホーチミン事務所

ベトナムの概要、経済、大型インフラ案件等についてお話を伺った。北部・中部・南部の 人口比の差はほとんどないが、リテイル売上比、工業・米・水産生産比は南部が全体の半 分以上を占めるそうだ。統計上、南部が商業の中心地であることがわかるが、実際に街を 歩いて南部の方が街並みも賑やかで栄えているという印象を受けた。

直近の大型インフラ案件は製鉄高炉 (2017 年稼働)、ニソン石油精製所 (今年末~2018 年稼働予定) 等がある。

◇ J I C A ベトナム事務所

日本の対ベトナムODA事業の概要を伺った。日本は援助の全体の約3割を供与し、支援の7割以上がインフラ整備関連である。特に運輸・交通の支援は約半数を占める。

現在、ベトナム初の地下鉄を建設中で 2020 年に一部開通予定だが、ベトナム人はバイク や車で移動することが多いため、地下鉄に乗る人は多くないと思うとガイドの方が言って いた。開通したあとの動向に注目したい。また、地下鉄工事にあたって、日本企業の清水 建設と前田建設工業の共同企業体がホーチミン市と受注契約を交わしたそうだ。

◇ホーチミン・ハノイ市内視察

統一会堂(旧大統領官邸)、中央郵便局、サイゴン大教会、ベンタイン市場、戦争証跡博物館、サイゴンスカイデッキ展望台、ホーチミン廟、ホーチミンの家、一柱寺、西湖、文廟を視察。

どこも観光客が多かった。戦争証跡博物館ではベトナム戦争で枯葉剤が撒かれた影響で障害を持って産まれた子供の写真が多く飾られており、ひどく胸が痛んだ。

タイ (バンコク)

◇JETROバンコク事務所

タイの概要、経済等についてお話を伺った。消費はプミポン前国王崩御の影響を受けて年終盤に失速。外国人観光客はLCC増便等の効果により前年同月比+9%とのこと。インターネット普及率は56%でLINE登録者が多く仕事でも使用されるそうだ。

私自身、仕事のツールとしてLINEを使用することはないため、衝撃を受けた。

◇JICAタイ事務所

タイに対するODA事業の概要を伺った。インフラ整備分野に重点的に取り組んでおり、 現在はバンコク〜チェンマイ高速鉄道事業等を手掛けている。2015 年 5 月に署名された 「日タイ鉄道協力覚書」において最優先事業の位置づけで、現在は J I C A 協力準備調査 を実施中。他に産業人材育成分野、保健医療・社会福祉分野等にも積極的に取り組み。

◇国際交流基金バンコク文化センター

団体の概要、活動内容についてお話を伺った。1972年に設立、2003年に独立行政法人に移行した団体である。日本人を中等教育機関に派遣し、現地の日本語教師と学習者のパートナーとして日本語教育支援を行うと同時に派遣者自身が現地の言語や文化を学び、相互理解を深める"日本語パートナーズ事業"を行っている。

◇バンコク市内視察

エメラルド寺院、ワットアルン、ワット・ポーを視察。昨年亡くなったプミポン前国王の 写真が街中の至るところに飾られており、国民に愛された王様ということが伝わってきた。 今年10月に一周忌を迎えたが、今でも毎日5,000人の国民がお参りに訪れるそうだ。



プミポン前国王のお参りに訪れる人々

◇最後に

一番衝撃を受けたのは、ベトナム・タイ共に道路や歩道の整備が進んでいないことだ。 信号はほとんどなく、あっても警察の目がなければ信号無視。歩道は段差が多く、何度も 躓いた。飲酒運転での死亡事故も大変多いそうだ。特にベトナムではベトナム戦争で撒か れた枯葉剤の影響で今でも身体に障害が残る方がたくさんおり、そのような障害者や高齢 者が生きにくい社会だと正直感じた。近年では保健医療や社会福祉分野にも積極的に取り 組みされていると伺ったが、今後より一層、弱者に寄り添う社会になっていくことを願う。

ベトナム (ホーチミン・ハノイ)

JICA、JETRO を訪問し、この国の現状をご教示いただきました。ハノイは首都であり 政治の中心都市だが、ホーチミンの方が経済が発達しており人口も多く活気にあふれてい



ホーチミンバイクの多さの記録

ました。日本では見ることのできない沢山のバイクに圧倒されました。バイクの多さだけではなく、一台のバイクに乳児を抱いた状態で4人で乗車していたり、沢山の荷物を運んでいたりと見ているだけでこちらが心配になるほどでした。インフラは日本に比べるとまだまだ整備されておらず信号は少なく、下水の臭いが漂い、道路の舗装状態は良くありません。健常者でもつまずきそうになるのに、特に障害を持った人々には大変不便ではないだろうか。日本はベトナム支援の7割以上をインフラ整備関連に協力しており、橋の整備、道路建設そしてベトナム初となる地下鉄建設(ホーチミン・ハノイ)を支援している。歩くのを面倒と思うベトナム人にも環境汚染、

交通渋滞が少しは解消されるであろう地下鉄が広く浸透す

ることを切に願います。上下水道は残念ながら計画がまだ追いついていない状況ではあるが、これからの発展が大いに期待できる国であると感じた。しかし日本がこれ程にもベトナムを支援していることは、わが国ではあまり知られていないのが残念でならない。

ホーチミンでストリートチルドレン友の会を訪問しました。ストリートチルドレンの施設と聞き、家族も住む家もない劣悪な環境のストリートで生きている子供達が生活しているのかと思っていたが、実際は親がいて帰る家もあるが教育を受けることが出来ない子供

達が勉強を無料で学べることが出来る場所であるとわかった。義務教育でありながら、経済的理由や必要書類が揃わないというだけで学校へ通えないというのは日本では到底考えられないことで驚きであった。しかし子供達の目はキラキラと輝き生き生きとした様子がうかがえ、訪問したメンバーからも自然と笑みがこぼれた。ただ一人うつ向き加減でぽつんと佇んでいる少女がおり気になって話しかけてみた。初めは大人しかったが少しづ



ストリートチルドレン友の会

つ笑顔になりつたない英語で一生懸命に話してくれた。ここの施設はどうかと尋ねると一

瞬の迷いもなく、好きではないと一言。期待に反した答えで少しショックを受け、理由を 尋ねたが英語で説明することは彼女には難しく、言葉が通じないことを大変もどかしく思 いました。帰国後もあの少女はどうしているのかと時々思うことがあります。

タイ (バンコク)

こちらでも JICA、JETRO、HBA、大学などを訪問した。タイは先に訪問したベトナムよりもはるかに発展しているのが街並み、自動車の多さですぐに分かる。スマートフォンの普及率も高く、日本同様 LINE の人気が高いそうだ。タイ航空の機内でも周りを見渡すとスマートフォンで LINE をしているタイ人が大勢見受けられた。昨年の一人当たりのGDP はベトナムの 3 倍近くにもなるが、富裕層・中流層はバンコク及び近郊に集中しているため地域格差は顕著である。地方地域も訪問することができたら、身をもって感じられたであろう。バンコク市内は近代的なビルと今にも崩れそうな老朽化が酷い建物が混在していた。近年では経済成長が高まっており日系企業、特にサービス業・中小企業の進出も増加し、ODA の技術協力・円借款は減少しているという。実際に驚くほど多くの日系企



タイに進出している日系企業ツルハの店舗

業を街で目にした。デパートでは日本の食品などが当たり前のように売られ、物価が安いタイでも日本商品の価格は日本と変わらないように感じた。今回訪問した HBA は2012年のツルハドラッグのタイ進出に伴い、タイに設立した道内企業の一つだ。現地法人を設立するにあたって BOI (タイ投資委員会)の認可を取得すると様々な恩典を得られるが、認可取得した1種類の事業しか営業できないため多様な事業を行っている HBA は取得をしていない。ただしビザ・ワークパーミットの取得に時間がか

っかたり、日本人1名につきタイ人4名を雇用しなければならないなどのデメリットがある。北海道を代表する企業としてこれからの成長に期待したい。

今回の研修では日本が具体的にどのような国際協力をベトナム・タイで行っているのか、また実際に両国の実情を見聞きし大変貴重な体験が出来たことに感謝したい。私個人レベルで、今後どのように国際協力に貢献することが出来るのか深く考えさせられる時間であり、5年後、10年後にどこまで発展するのか再びこの目で見たいと強く思いました。

行動記録

| 日付 | 発着・滞在地 | 交通機関 | 時間 | 内容 |
|-------|----------|--------|-------|---------------------------|
| 10/29 | 新千歳空港 | | 8:05 | 新千歳空港 国際線ターミナル 3F |
| (日) | | | | HIECC 星より、現地での訪問地へ持参するお土産 |
| | | | | を預かる。 |
| | | | 8:35 | 団結式 |
| | | | | ・団長より団結の挨拶 |
| | | | 8:40 | 保安検査場通過 |
| | 新千歳空港→ | タイ航空 | 9:53 | 飛行機に搭乗 |
| | スワンナプーム空 | TG-671 | 10:21 | 45 分出発が遅れる機内アナウンス |
| | 港 (タイ) | | 11:03 | 飛行機が滑走路に向けて動き出す。 |
| | | | 11:22 | タイのスワンナプーム国際空港へ向けて離陸 |
| | | | 11:35 | 昼食の機内サービスを開始。 |
| | | | 12:45 | 台風の影響で激しい揺れの中、機内食完食 |
| | | | 17:15 | 機内食のたい焼きを完食 |
| | | | 17:58 | タイ国際空港へ着陸 |
| | | | | |
| | スワンナプーム→ | タイ航空 | 18:16 | タイからベトナムホーチミン行きの飛行機に搭乗 |
| | タンソニャット空 | TG-556 | 以後現 | |
| | 港(ホーチミン) | | 地時間 | |
| | | | 19:02 | ベトナムへ向けて離陸 |
| | | | 19:17 | 機内食サービス開始 |
| | | | 20:31 | 空港に到着 |
| | | 専用車 | 21:11 | 空港からチャーターした車にのってホテルまで移 |
| | | | | 動開始 |
| | | | 21:36 | ホテル到着 |
| | | | | |
| | | | 22:20 | ホテルにて明日の子どもたちとの交流会で渡すお |
| | | | | 土産の準備 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| 10/30 | ホーチミン | 専用車 | 8:00 | ホテルロビーに集合 |
|-------|-------|-----|-------|---------------------------|
| (月) | | | 8:04 | ホテル出発 |
| | | | 8:20 | F.F.S.C事務局(ストリートチルドレン友の会) |
| | | | | に到着 |
| | | | | 現地スタッフ女性より活動内容の説明 |
| | | | | 終了 |
| | | | 9:30 | 子供たちのいる施設に向け出発 |
| | | | 9:58 | 施設に到着 |
| | | | 10:55 | 子供たちの教室を見学。その後、交流会を開始。 |
| | | | | 子供たちの元気なパワーに圧倒され、へとへとにな |
| | | | | る。 |
| | | | 12:15 | 昼食 |
| | | | | 昼食は子供たちと一緒にチキンにごはん、野菜など |
| | | | | を頂く。 |
| | | | 12:25 | 食事終了 |
| | | | 13:00 | 子供たちにお別れの挨拶 |
| | | | | JETROに向かう前に着替えのためFFSC事 |
| | | | | 務局へ移動 |
| | | | 14:06 | 近隣施設よりJETROまで徒歩移動 |
| | | | 14:15 | JETRO入館 |
| | | | | 現在のベトナムの経済状況、日本からの援助の状況 |
| | | | | などの説明をしていただく。 |
| | | | | 今後も数年は経済発展が順調に続く見通しではあ |
| | | | | るが、インフレ傾向になるため現地通貨の価値は |
| | | | | 年々下がっている。残業手当は日本よりも高額な倍 |
| | | | | 率であり、ベトナムでは残業がほとんどないことに |
| | | | | 驚く。 |
| | | | 15:45 | JETRO出発 |
| | | | 16:20 | 現地イオンに立ち寄り現地での日本の企業のお店 |
| | | | | を見学 |
| | | | | |
| | | | | 日本のイオンと同じような作りで、とても綺麗であ |
| | | | | った。 |
| | | | | 日本食も豊富に販売されており、生寿司なども販売 |
| | | | | されていて日本と変わりない食生活を満喫できそ |
| | | | | うであった。 |
| | | | 18:12 | みんなで食事開始 |
| | | | 19:40 | 夕食終了 |
| | | | | ホテル到着、解散 |
| | | | | |

| 10/31 | ホーチミン | バス | 9:00 | ホテルロビーに集合、出発 |
|-------|--|----------------------|-------|------------------------------|
| (火) | | , ,, | 9:07 | サイゴン郵便局に到着 |
| | | | 3.07 | 建物の見学、土産屋の見学 |
| | | | 9:25 | 駐車違反で移動用の車が捕まる。日本よりも高い |
| | | | 3.20 | 反則金で運転手の人が涙を流す。 |
| | | | 9:38 | 戦争証跡博物館へ向けて移動 |
| | | | 9:45 | 博物館到着。自由見学。枯葉剤の影響などのパネル |
| | | | 9.40 | が展示されていた。 |
| | | | 10:45 | 博物館出発 |
| | | | 10:43 | 旧大統領回廊に到着 |
| | | | 10.55 | 写真撮影 |
| | | | 11:00 | 子类版於 旧大統領回廊出発 |
| | | | 11:05 | 「口入杭原旦原山光 ベンタンマーケットに到着 |
| | | | 11.00 | 「市場でいろんなものが売っているがこれといって |
| | | | | ほしいものもなく終了。市場の外では障がい者の人 |
| | | | | が宝くじを販売していた。バイクタクシーの運転手 |
| | | | | さんから日本語は独学で勉強した話を聞く。日本人 |
| | | | | と違い流ちょうに外国語を話せるのでびっくりし |
| | | | | |
| | | | 11:38 | た。 市場を出発 |
| | | | | 川場を山光 サイゴンタワー到着 |
| | | | 11:50 | サイゴンタワー到有 サイゴンタワー出発 |
| | | | 12:20 | |
| | | | 12:30 | 昼食を頂く |
| | | | 13:32 | 出発 |
| | カンパー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | S. L. L.) differite | 14:05 | 空港到着 |
| | | ベトナム航空 | 14:42 | 保安検査場通過 |
| | 港 (ホーチミン) → | VN-256 | 15:42 | 飛行機へ搭乗 |
| | ノイバイ空港 (ハノイ) | | 16:15 | 駐機場へ移動 離陸 |
| | | | 16:30 | |
| | | | 17:00 | 機内食サービス |
| | | 古田古 | 18:08 | ハノイ到着 |
| | ハノイ | 専用車 | 19:00 | 空港出発 |
| | | | 19:30 | 夕食開始 |
| | | | 01:00 | フランス料理で肉がなかなか切れずに苦労した。 |
| | | | 21:00 | 夕食終了 |
| | | | 21:25 | ホテルに到着 |
| | | | 21:43 | ホテルにて明日の準備及び打合せ開始 |
| | | | | 団員仕事・大学のことなど自分たちについて話をす |
| | | | 00:00 | る。 kr \) 1 / h マ - か 信 |
| | | | 22:30 | 打合せ終了、就寝 |

| 11/1 | ハノイ | 専用車 | 8:25 | ホテル出発、JICA へ移動 |
|------|-----|-------|----------------------------------|---|
| (水) | | 47714 | 8:37 | JICA 入館 |
| | | | 8:55 | 小林様より説明をしていただく。 |
| | | | 0 00 | 水道の浄化技術は日本の地方自治体が来て技術の |
| | | | | 継承を行っている。 |
| | | | | 説明会終了 |
| | | | 11:10 | JICA 出発 |
| | | | 11:20 | 昼食のレストランに到着 |
| | | | 12:38 | 食事終了 |
| | | | 13:32 | 大学へ向けて出発 |
| | | | 13:45 | 大学到着 |
| | | | 14:35 | 大学生のみなさんと交流開始 |
| | | | 14:45 | ベトナムの良いところなどを流ちょうな日本語で |
| | | | 14.40 | プレゼンしてもらう。 |
| | | | | グ・こくしょう。 蛇を飼って食べる村の出身者もいてびっくり。 |
| | | | | 珍しい習慣を恥ずかしそうに話をするところも日 |
| | | | | 本人と似ていた。 |
| | | | | こちらからも北海道や日本の魅力をプレゼン。現地 |
| | | | | の学生が熱心に耳を傾けていたのでとても話しや |
| | | | | すかった。 |
| | | | 17:00 | |
| | | | | |
| | | | 10.90 | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | 20:12 | |
| | | | | |
| | | | 20 10 | |
| | | | | () () () () () () () () () () |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | 17:00 18:30 20:12 20:45 | 交流会終了 大学生たちと食事会 ベトナムの現地の居酒屋のようなお店で楽しく食事をする。大学生活の様子や将来についての話をお互いにした。 食事会終了 ホテル到着 疲れが出てそのまま就寝。 |

| 11/0 | 15.7.2 | 古田古 | 0:50 | ロビ 焦久 ナニル山珍 |
|------|--------------|---------|-------|-------------------------|
| 11/2 | ハノイ | 専用車 | 8:58 | ロビー集合、ホテル出発 |
| (木) | | | 9:10 | ホーチミン廟到着 |
| | | | | ホーチミンおじいさんは、メンテナンスのため非公 |
| | | | | 開となっていた。メンテナンスは高額なお金をかけ |
| | | | | てロシアで行っているそう。遺体の保存は本人の希 |
| | | | | 望ではない模様。 |
| | | | 10:55 | 文廟到着 |
| | | | 11:45 | 出発 |
| | | | 12:30 | 食事 |
| | | ベトナム航空 | 13:45 | 空港到着 |
| | ノイバイ空港 | VN-613 | 15:10 | 飛行機に搭乗。ベトナムからタイへ再度渡るため。 |
| | (ハノイ) | ,1, 010 | 15:28 | 移動開始 |
| | → | | 15:39 | 離陸 |
| | スワンナプーム空 | | 16:00 | 機内食サービス |
| | 本 (バンコク) | | | 機内食完食 |
| | 色(ハンコク) | | 16:28 | |
| | | | 17:25 | 着陸 |
| | | | 19:00 | 入国審査 |
| | | | 19:10 | 無事、タイに入国 |
| | | | | 説明終了 |
| | | | 19:30 | 両替のためバスから空港へ引き返す |
| | バンコク | 専用車 | 19:45 | 両替終了。バスに乗車。ホテルへ移動。 |
| | | | 20:15 | ホテル2Fで食事 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| 11/3 | バンコク | 専用車 | 8:15 | ロビー集合、ホテルを出発 |
|------|------|-----|---------|---|
| (金) | | | 8:40 | JETRO 到着 |
| | | | 9:46 | タイの現状について話をしていただく。洪水の話や |
| | | | | タイの地形の話。タイの相続税がないことについて |
| | | | | 説明頂く。どれも新鮮で初めて聞くような話だっ |
| | | | | た。 |
| | | | 10:07 | JETRO 出発 |
| | | | 10:40 | JICA 到着 |
| | | | | 市内の渋滞により遅刻してしまう。 |
| | | | 11:40 | JICA 出発 |
| | | | 11:50 | 下に降りてきた。寒いオフィス。 |
| | | | 12:00 | バス到着。渋滞でピックアップ場所まで来るのにも |
| | | | | 時間がかかった模様。 |
| | | | 12:22 | 昼食会場を変更。レストランへ。 |
| | | | 13:10 | HBA タイランド到着 |
| | | | | 道内企業の HBA の方より説明を聞く。 |
| | | | | アイスコーヒーを買ってきてくれていて美味しか |
| | | | | った。 |
| | | | | タイでもツルハやマックスバリューなどお馴染み |
| | | | | の企業が進出しておりこれからどんどん増えると |
| | | | | いう。 |
| | | | 13:45 | HBA タイランド出発 |
| | | | 14:18 | 渋滞の中国際交流基金へ向けて出発 |
| | | | | 冬の札幌市中心部のようなノロノロ運転。 |
| | | | 14:26 | 国際交流基金ビルに到着 |
| | | | 14:38 | 国際交流基金担当者様より財団の活動について説 |
| | | | | 明を受ける。図書館や日本語教室などもあり、日 |
| | | | 4 4 5 0 | 本の文化を広げる活動をしている。 |
| | | | 14:58 | 国際交流基金出発 |
| | | | 15:25 | 大学へ到着 |
| | | | 10:00 | 大学生からタイの紹介のプレゼンを受ける。 |
| | | | 16:30 | こちらからもお返しのプレゼン、ベトナムの大学生 |
| | | | 17:15 | よりも元気な様子。 |
| | | | 17:15 | 夕食 |
| | | | | 大字生のみんなとショッピングモールの中の科理 店で食事を一緒に取る。 |
| | | | | 店で良事を一桶に取る。 話を聞くとほとんどの人が日本の有名な外国語大 |
| | | | | 学への留学が決まっており進路の決まっていない |
| | | | | 人が少数。また親が会社経営者で日本とのビジネ |
| | | | | |
| | | | | スをしており、日本語を専攻している模様。 |

| | | | 10:00 | 5AM7 |
|------|------------|--------|--------|-------------------------|
| | | | 19:38 | 夕食終了 |
| | | | 20:32 | ホテルの部屋に到着 |
| | | | | 大人なグループで反省会を実施。 |
| | | | 24:00 | 反省会終了、就寝 |
| 11/4 | バンコク | 専用車 | 9:00 | ホテルをチェックアウト、市内観光出発 |
| (土) | | | 9:42 | エメラルド王宮到着、ひたすら歩き疲れ、人ごみに |
| | | | | まいる。 |
| | | | 11:30 | 川を渡ったところにある仏像を見る。 |
| | | | | 急な階段があり、倒れそうになる。 |
| | | | 12:45 | バスに戻る。 |
| | | | 13:05 | 昼食のためレストランに到着 |
| | | | 14:06 | 昼食終了 |
| | | | 14:55 | 伊勢丹デパートにてお土産の物色 |
| | | | | 日本と変わりのないようなものがたくさん売られ |
| | | | | ていた。 |
| | | | 17:25 | バスに集合 |
| | | | 18:15 | レストラン到着 |
| | | | | タイ料理を満喫。辛い料理があり食べられない人も |
| | | | | いた。 |
| | ノイバイ空港 (ハノ | タイ航空 | 20:12 | 空港到着 |
| | イ)→新千歳空港 | TG-670 | 23:20 | 搭乗開始 |
| | | | 23:40 | 離陸 |
| 11/5 | | TG-670 | (日本時間) | |
| (日) | | | 6:30 | 機内食サービス開始 |
| | | | 7:00 | 機内食完食 |
| | 新千歳空港 | | 8:30 | 新千歳空港に到着 |
| | | | | 新千歳空港内にて解散式 |
| | | | | みなさんお疲れ様でした。 |



公益社団法人

北海道国際交流・協力総合センター **HIECC / ハイエック** (旧 社団法人北方圏センター)

Hokkaido International Exchange and Cooperation Center Hokkaido Government Annex West-7, North-3, Chuo-ku PHONE:+81(11)221-7840 FAX:+81(11)221-7845

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目(道庁別館12階) TEL:011-221-7840 FAX:011-221-7845 URL:http://www.hiecc.or.jp E-mail:hiecc@hiecc.or.jp